

# 【国際委員会 第1回国際活動報告会】

## 第46回日韓技術士国際会議 日光大会の報告

平成29年6月24日

日韓技術士交流委員会

室中 善博

# 目次

1. 日韓技術士国際会議の目的と経緯
2. 日韓技術士国際会議の構成
3. 第46回日光大会の概要
4. 今後の取り組み

# 1. 日韓技術士国際会議の目的と経緯

【目的】日韓技術士国際会議は、日本と韓国、両国技術士の相互友誼を図り、両国の科学技術振興と産業及び経済発展に資する。

## 【経緯】

日韓技術士国際会議が始まった発端は、東京オリンピック後の日本が高度成長時代に入る1965年に遡る。ともに技術立国を目指す国柄であり、この技術交流がその後の韓国の高度成長にも少なからぬ影響を与えた。

第1回は1971年10月ソウルで開催された。それ以降、ほぼ毎年1回それぞれの首都で交互に開催された。1980年、両国共通のテーマを掲げて会議を行うシンポジウム形式が始まり、この様式は現在も踏襲されている。

1988年、本会議が両国の産業発展に寄与することを願い、日本側に日韓産業構造調査研究委員会、韓国側に韓日産業調査研究委員会が設けられ、テーマの絞り込みを行うことになった。

1992年からは、首都以外の地方都市での開催が始まり、参加者数も飛躍的に増加した。この年から個別分野に分けて討議を行う分科会が加わった。

2005年から青年技術士主導の親善友好サッカー大会、2007年から女性技術士主導の女性技術士交流会が加わり、老若男女が一体となった技術士の交流を深めている。

現在、参加者は300名を越える規模の国際会議となっている。

日韓技術士国際会議の名称は、日本側では「日韓技術士会議」、韓国側では「韓日技術士合同シンポジウム」と日韓別称を用いていたが、国際会議としての体裁を整えるべく、2014年より「日韓（韓国開催時は韓日）技術士国際会議」に統一された。

# これまでの開催地

回	年月	開催地	回	年月	開催地	回	年月	開催地
1	1971.10	ソウル	16	1987.02	東京	31	2001.11	濟州
2	1972.11	東京	17	1987.11	ソウル	32	2002.11	仙台
3	1973.10	ソウル	18	1988.11	東京	33	2003.10	束草
4	1974.11	東京	19	1989.10	ソウル	34	2004.10	米子
5	1975.10	ソウル	20	1990.10	東京	35	2005.10	全州
6	1976.11	東京	21	1991.10	ソウル	36	2006.11	那覇
7	1977.04	ソウル	22	1992.10	新潟	37	2007.10	ソウル
8	1978.11	東京	23	1993.10	大田	38	2008.09	新潟
9	1980.01	ソウル	24	1994.09	札幌	39	2009.10	仁川
10	1980.10	東京	25	1995.10	慶州	40	2010.10	下関
11	1982.02	ソウル	26	1996.11	松江	41	2011.10	大邱
12	1982.10	東京	27	1997.10	牙山	42	2012.10	名古屋
13	1983.11	ソウル	28	1998.11	千葉	43	2013.10	水原
14	1984.10	東京	29	1999.10	釜山	44	2014.10	松山
15	1985.11	ソウル	30	2000.11	福岡	45	2015.10	春川
						46	2016.10	日光

## 2. 日韓技術士国際会議の構成

### 【第1日目】

- ・親善サッカー大会、女性技術士交流会、前夜祭、会長主催晚餐会

### 【第2日目】

- ・午前：式典（会長、委員長、来賓挨拶）基調講演（両国1名ずつ）
- ・午後：分科会
  - 第1分科会 環境・資源・エネルギー
  - 第2分科会 建設・安全・防災
  - 第3分科会 技術者倫理・技術資格・技術教育
  - 第4分科会 電気・電子・情報・機械
  - 第5分科会 英語発表
- ・夜の部：友好親善晚餐会
- ・終日：ポスターセッション
- ・レディースコース（同伴参加者のための文化視察）

### 【第3日目】 研修視察

### 3. 第46回日光大会の概要

**開催日**：2016年10月2日（日）～4日（火）

**場所**：栃木県日光市鬼怒川温泉、きぬ川ホテル三日月

**主題**：「伝統的技術と最新技術の融合と発展」

東照宮の五重塔にみられる耐震構造をヒントにした現代の超高層タワー建造技術など、古の伝統技術を活かし発展させることは、現代の技術者にとってその持つ意味は大きい。

**イベント(10月2日午後)**：

- ・ 第10回日韓女性技術士交流会
- ・ 第12回日韓技術士親善サッカー大会
- ・ 前夜祭、両国会長夕食会



第10回女性技術士交流会は、日本8名、韓国8名に加え、今回初めて地元栃木県10名、茨城県1名の女性技術者の参加を得て開かれた。両国活動報告、そして持続可能な社会に向けた環境に関する両国からの論文発表など約2時間、文化交流として会食をはさみ約1時間の内容の濃い会合となった。



第12回親善サッカー大会は、宇都宮市河内総合運動公園で開催された。好天の下、日韓戦は白熱した好ゲームが展開された。結局、3 - 0で日本側が圧勝した。試合後の前夜祭では双方選手たちが健闘を称えあった。

## ■ 式典・全体会議（10月3日 9:00～12:20）

式典では両国会長による式辞に続き、来賓からの祝辞を頂いた。その後、基調報告が両国委員長から、会議テーマにもとづく基調講演が両国から行われた。記念講演で式典・全体会議が締め括られた。





## ■分科会(10月3日 13:30~17:00)

午後は5分科会を開催した。逐次通訳  
(第5分科会は英語発表)を交えて、  
開催地栃木県からの6名を含め31名の  
日韓技術士(日本17名・韓国14名)が  
発表し、会議テーマに沿った内容もあり  
実のある分科会であった。



第1分科会		国土・環境・資源・エネルギー・食品
J1-1	小川正順【農業】	那須野ヶ原の水利開発の歴史
J1-2	松本茂【建設/総合】	栃木県の水力発電, その歴史と今後の展望
J1-3	小林政徳【機械】	火力発電を中心にエネルギー問題を考える
K1-1	李俊馥【造景】	韓国庭園の方池圓島築造様式
K1-2	崔原徳【水質管理】	排煙脱黄 廃水処理設備の運営事例

<b>第2分科会</b>		<b>建設・安全・防災・危機管理</b>
J2-1	上野将司【建設/応用理学】	斜面災害における二次災害防止の検討
J2-2	右城猛【建設/総合】	日本におけるブロック積み擁壁の技術的変遷と課題
J2-3	稲葉茂【建設/総合】	1998年に発生した余笹川水害とボランティア活動について
J2-4	益子崇【建設/総合】	総合スポーツゾーンの整備について
K2-1	高光珍【土質基礎/土木施工】発表なし	低出生率について実質的で実効性のある対策が急務である
K2-2	安明碩【火薬類管理】	建設工事現場でのポケモンGOの適用と火薬発破CM
K2-3	禹鍾烈【建築構造】	鉄筋コンクリート・フラットプレートスラブの垂直懸垂形剪断強化(VSSR)に関する性能実験と施工事例
K2-4	張根榮【都市計画】口頭発表のみ	建設技術部門、エンジニアリング産業の実態分析を通して都市計画分野の対応方法を模索する
<b>第3分科会</b>		<b>技術者倫理・資格・教育・新技術・新工法</b>
J3-1	笹尾圭哉子【上下水道】	男女共同参画の実践
J3-2	佐藤国仁【機械/総合】	技術士の事故調査とその役割
J3-3	小方弘成【機械】	なくならない家電事故, 再発防止に向けての技術者の役割
K3-1	金鍾浩【建築構造】	蚕室ロッテタウンの構造設計と技術
K3-2	徐英今【建築電気設備】	野生花の花言葉から探す技術士倫理の話
K3-3	李芝衡【水質管理】	技術士CPD 教育による同伴成長

第4分科会		電気・電子・情報・通信・機械
J4-1	金澤政和【電気電子】	電気通信技術における朝鮮通信使からの日韓交流の変遷
J4-2	廣瀬由紀【情報工学】	建築設計事務所におけるプロジェクト管理システム
J4-3	飯島晃良【機械】	高効率エンジンの実現に向けた次世代燃焼技術
K4-1	金炯俊【産業機械設備/車輛】	軽油自動車用の煤煙低減装置(DPF)のクリーニング性能高度化に関する研究
K4-2	南光元【建設機械】	伸縮アームを装着した掘削機の作業特性
K4-3	南聖源【鐵道車輛】	鐵道車両の走行抵抗に関する研究
第5分科会		英語発表
J5-1	前田秀一【化学/総合】	Where the Electronic Paper Is and Where It Is Going
J5-2	野々部顕治【上下水道/衛生工学】	Application of the new membrane filtration technology for the traditional biological wastewater treatment methods
J5-3	小松英司【環境】	A Global Solution for Environmental Technology Transfer within AEC+2
J5-4	川上寛児【電気電子】	Treasures of the Sho-so-in
K5-1	金永川【コンピュータシステム應用】	Wireless Sensor Network for Smart Wind Farm
K5-2	柳忠鉉【都市計劃】	Chosun Dynasty 5 palaces in Seoul
K5-3	尹錫龍【土木構造】	Where Engineering to go, Space or Sea ?



## ■レディースコース(10月3日9:30～16:00)

日韓併せて43名が参加した。初秋の華厳の滝をバックに写真撮影した後、中禅寺湖を眺めながら昼食をとった。午後、遊覧船からイタリア大使館別荘や八丁出島等の眺望を楽しみ、帰途は第一いろは坂を下った後、大正天皇御用邸だった国指定重要文化財の田母沢御用邸記念公園を視察した。一行は日光の雄大な自然と歴史を満喫した。

## ■ポスター展示(10月3日9:00～21:00)

本会議場入口前のスペースにおいて、両国技術士などによるポスター展示、情報・意見交換が行われた(展示数は20)。今回、展示資料集300部を発行、参加者に配布した。午後は、一部の展示が分科会場にも移され、参加者へのPRを積極的に行った。

## ■親善晩餐会(10月3日 18:30～21:30)

18時30分からコンベンションホールにおいて、巻狩り太鼓の歓迎音頭の中、親善晩餐会が開会された。両国技術士会会長、赤松栃木県副知事の挨拶に続き、日本技術士会から韓国技術士3名への功労者表彰(国際貢献賞)が行われた。また、サッカー試合で勝利した日本チームと両国のMVPに記念品が渡された。斎藤日光市長の乾杯の後、全国的に有名な「日光和楽踊り」が披露され、日韓参加者が文字通り輪になって懇親を深めた。続いて次回開催地の釜山市の紹介がなされ、歓迎の意気込みが会場一杯に伝わった。最後に、恒例の両国ご婦人方がハーモニカ等の伴奏に合わせてコーラスを披露し、晩餐会の最後を飾った。



## ■ 研修視察(10月4日8:30～14:00)

研修視察は、3コースが設定された。Aコースは1884年創業で超電導ケーブルを製作している古河電工日光作業所、Bコースは最大出力105万kWで日本を代表する揚水発電所「東京電力今市発電所」、Cコースは世界遺産の日光東照宮、二荒山神社、輪王寺三仏堂を視察した。





## 4. 今後の取り組み

- 2017年度は、10月26日（木）～10月28日（土）の3日間 韓国釜山のロッテホテルで第47回日韓技術士国際会議を開催する。
- 今年の会議主題：「気候変化と自然災害への挑戦と対応」
- 参加申し込み：7月以降技術士会HPで案内される。  
奮ってご参加下さい。
- 2018年度の開催地：兵庫県神戸市
- 今後とも、日本と韓国、両国技術士の相互友誼を図り、両国の科学技術振興と産業及び経済発展に資するために、日韓技術士国際会議を続ける。